新潟大学　倫理審査委員会　オプトアウト書式

①研究課題名	間質性肺炎合併肺癌の手術例における周術期～術後中期の間質性肺炎急性増悪に関する検討
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
2021 年 1 月-2025 年 12 月に当院で原発性肺癌に対し肺切除を行った患者さんのうち術前 CT で間質性肺炎を指摘された患者さん	
③概要 間質性肺炎の患者さんで、肺癌の手術を契機に短期間に急激に呼吸状態が悪化することがあります。このことを間質性肺炎の急性増悪と呼びます。急性増悪になりやすい患者さんを手術前に予測することができれば、予防につながるのではないかと考えています。現在、急性増悪を予測するために広く使用されている指標は、正確な予測をできていない可能性が指摘されており、今回は改めてどのような患者さんが急性増悪をしやすいのかを探るための検討を行います。対象患者さんの中で急性増悪を起こした患者さんと、起こさなかった患者さんとの間に違いがあるかを検証し、急性増悪を予測できる因子を特定することで、手術前からリスクの高い患者さんを現在よりも正確に推測することができると考えています。	
④申請番号	2026-0099
⑤研究の目的・意義	間質性肺炎の急性増悪を起こしやすい患者さんの特徴を特定すること、また急性増悪を来した場合はどのような経過をたどるかを解明することです。
⑥研究期間	倫理委員会での承認後、2026 年 12 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	電子カルテに保存されている病歴，血液検査結果，画像検査結果，呼吸機能検査結果、手術記録、病理結果を利用します．使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い，研究に使用します．研究の成果は，学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが，名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません.
⑧利用または提供する情報の項目	病歴（年齢，性別，併存症，喫煙指数，周術期合併症，入院期間，ドレーン留置期間，急性増悪までの期間，転帰）、血液検査結果（腫瘍マーカー，KL-6），画像検査結果（腫瘍径，間質性肺炎や肺気腫の有無），呼吸機能検査結果，手術記録（術式，手術時間，出血量），病理検査結果（腫瘍径，リンパ節転移の有無，組織型，間質性肺炎の有無）
⑨利用する者の範囲	新潟大学で利用いたします。 新潟大学　呼吸循環外科
⑩試料・情報の管理に	新潟大学　呼吸循環外科 講師　小池 輝元

ついて責任を有する者	
⑪お問い合わせ先	呼吸循環外科 医局 小池 輝元 Tel: 025-227-2243 E-mail：su2sec@med.niigata-u.ac.jp